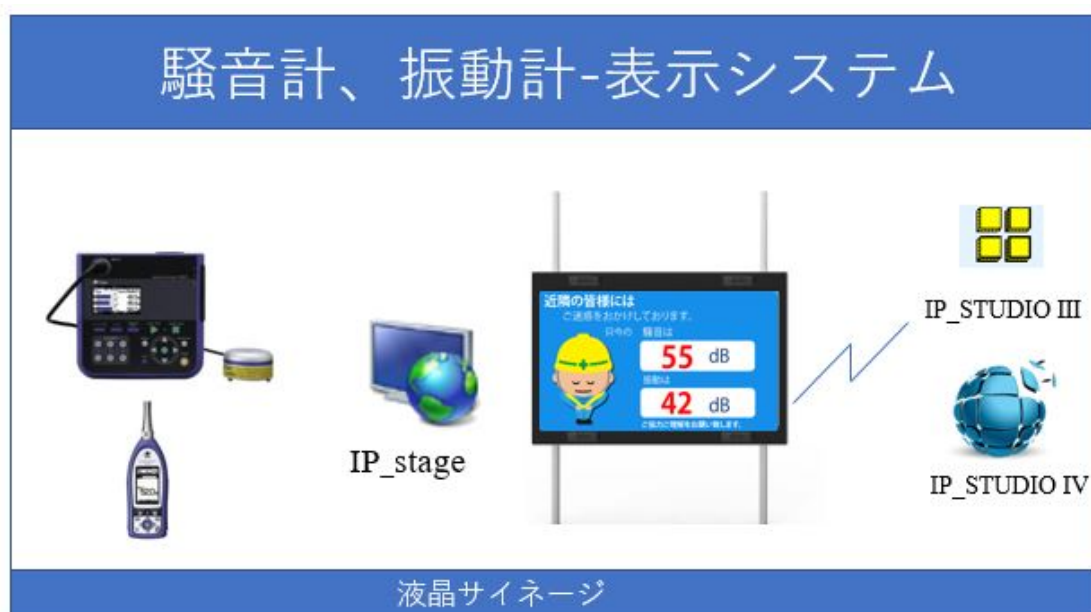


# IP\_STUDIO の測定器のデータ表示設定

## 簡単説明書



Ver.1.0

アイティニュース

# はじめに

本書は測定器（騒音計、振動計）の情報を液晶サイネージで表示する方法を簡単に説明します。

## Index

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| はじめに.....                          | 2 |
| 1.概要.....                          | 3 |
| 2.IP_STUDIO スケジューラー設定.....         | 4 |
| 3.サイネージ（STB）のIP_STUDIO プレーヤ設定..... | 5 |
| 4.USB ドライバーソフトウェアのインストール.....      | 5 |
| 5.サイネージにデータ取り込みソフトウェアをインストール.....  | 6 |
| 6.サイネージのホルダー.....                  | 7 |



# 1.概要

サイネージは測定器の情報をリアルタイムで表示できます。近隣の住民、通行人に工事現場の情報をすみやかに、正確に伝えることができます。表示用の画面設計と表示スケジュールは IP\_STUDIO ホスト（スケジューラー）で設定します。

## 設定の作業手順

サイネージで計測器の情報を表示するには、各機器の設定、ソフトウェアインストールが必要になります。以下の手順で設定をします。

### 1. 測定機器の設定

各測定機器については測定器メーカー等の説明書、マニュアルなどをご参照ください。液晶サイネージとの接続は USB ケーブル（A-miniB）を使用します。液晶サイネージには USB 接続端子が1つのため拡張 USB ハブをご用意ください。マウス、キーボードの接続も必要になります。

### 2. IP\_STUDIO スケジューラー設定

IP\_STUDIO の画面設定（デザイン）、ファイル設定をします。プログラムの変更はありません。

### 3. サイネージ（STB）の IP\_STUDIO プレーヤ設定

IP\_STUDIO プレーヤーの設定

1.IP\_STUDIO プレーヤーに測定器データ表示対応プログラムをインストールします。（IP\_CTL.exe、IP\_PLAY.EXE）

2.INI ファイルを追加します。ファイル名は IPFILE.INI

### 4.測定器メーカーの USB ドライバーソフトウェアのインストール。

### 5.液晶サイネージ にデータ取り込みソフトウェアをインストール

IPstage をインストールします。

タスクトレイのアイコンから初期設定をします。

### 6.サイネージ（STB）、ソフトウェア、DATA ホルダーの設定

設定の詳細説明は以下のページをご参照下さい。

## 2.IP\_STUDIO スケジューラー設定

IP\_STUDIO スケジューラーのデータホルダー [IP\_DATA 4\_HOST] に次の TXT ファイルを作成してあります。(測定データが入ってないのでヌル(空白)です)

SINDOU.TXT,SOUON.TXT,

スケジューラーで表示用のデザインをします。

例：JPEG、pngなどで背景の静止画を作成します。(サンプル画像 1 点付属)

参考：ITNEWSCONTENTSホルダーに KANKYOUYOKO-3.IPA が設計されています。  
こちらをそのままご利用もできます。



騒音計は SOUON.TXT、振動計は SINDOU.TXT を空白のところに IP\_STUDIO の [T] (テキスト挿入) で設定します。



### 3. サイネージ (STB) の IP\_STUDIO プレーヤ設定

#### IP\_STUDIO プレーヤーの設定

1 .INI ファイルを追加します。ファイル名は IPFILE.INI

INI ファイルは T X T です。

```
#####  
#       ファイル リダイレクト設定  
#  
#       書式 : IP_STUDIO 設定ファイル名, プレーヤー参照ファイル名, 表示間隔(秒数)  
#  
#       ※IP_STUDIO 設定ファイル名は、ファイル名のみでパス名は含めないでください  
#       プレーヤー参照ファイル名は、フルパスで指定してください  
#  
#####  
SINDOU.TXT, C:¥DATA¥振動レベル.dat, 1  
SOUON.TXT , C:¥DATA¥騒音レベル.dat, 2
```

ホルダーは 1 同様 [IP\_STUDIO4\_TERM] です。

3.計測器からのデータ取り込みホルダーの作成

DATA ホルダーを C ドライブのルートに作成します。

### 4.USB ドライバーソフトウェアのインストール

リオン製の測定器を USB で取り込むには、リオン社の WEB から専用ドライバーをインストールします。

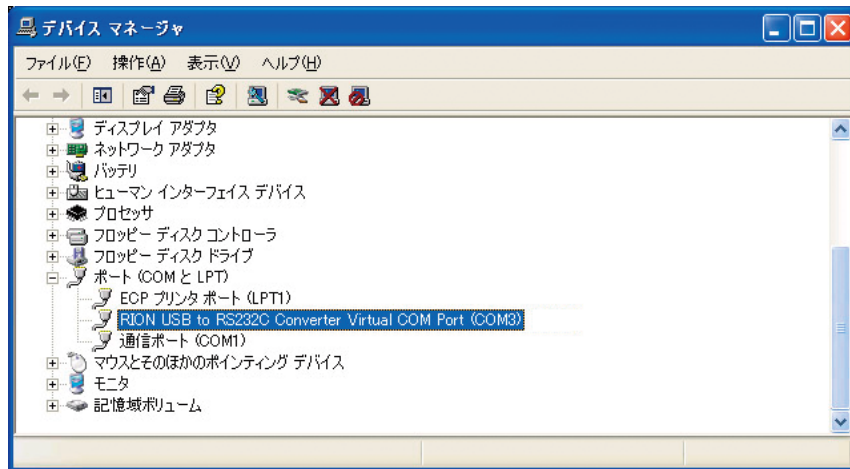
インストールが正常に行われた後、デバイスマネージャーでポート COM を参照します。

[RION USB to RS232C Conbert Virtual COM PORT] が表示されます。

各装置装置用のドライバーをインストールします。NL-42 用と VM-55 用

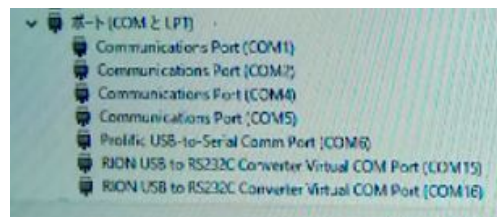
(リオンのホームページでは VM-55 用は NL-42 も可能と書かれていますが、2つの

ドライバーをインストールして下さい。)



※アイコンに X がついていないか確認します。X がある場合は、再度ドライバーのインストールをしてください。


注意；2 台の測定器を利用する場合（振動計 1、騒音計 1）はポート 2 個追加されます。ここで、表示されるポート番号を IP\_STAGE のプロパティに設定します。

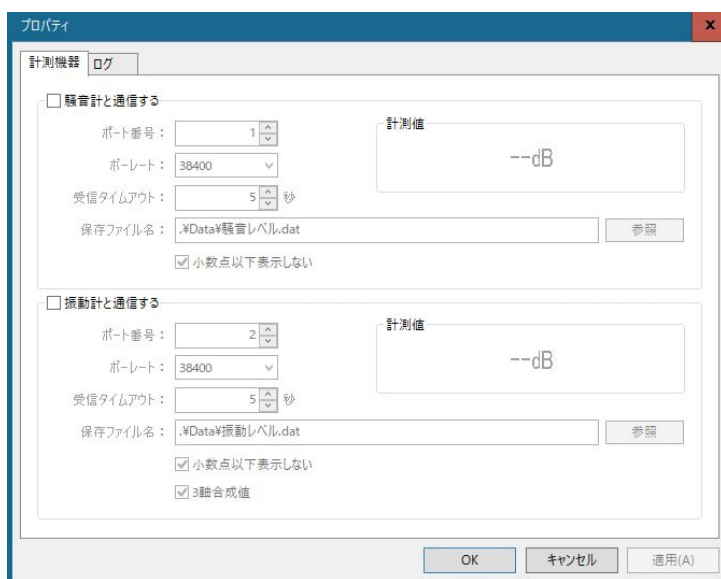


この例では 15 と 16 です。

ポート番号はそれぞれの環境で違います。また、USB 機器を追加、変更した場合も変わりますので、その場合は再度設定してください。(Windows の特性上固定できません。)

## 5. 液晶サイネージにデータ取込みソフトウェアをインストール

データ取込み用ソフトウェア [IPstage] を液晶サイネージにインストールします。IPstage は IPstage を起動中はバックグラウンドで作動して、測定器からデータをリアルタイムで取り込みます。(表示情報は 1 秒毎のデータが自動で更新表示されます。)  
IPstage の初期設定は Windows 右下のタスクトレイの IPstage アイコン  から設定します。



Windowsのコントロールパネル>デバイスマネージャー>ポート



COMポート15  
COMポート16

## 設定は

1. 利用する機器の□にチェックを入れます。
  2. ボーレートを選択します。ポート番号を設定します。  
ポート番号はコントロールパネルのデバイスマネージャーで表示されているポート番号を入力します。
  3. 保存ファイル名を設定します。(振動レベル.dat、騒音レベル.dat )
- ※) ボーレートは測定器側のボーレートと一致させてください。  
(測定器の設定は測定器の取説、マニュアルなどをご参照下さい)

## ○測定データについて

1. 測定データは振動計からは 振動レベル.dat
2. 測定データは騒音計からは 騒音レベル.dat に格納されます。  
(参照ボタンで探索してください。C:\¥DATA)

Log はテキスト情報として格納されます。(将来拡張機能用)

※) 常時液晶サイネージで表示させる場合、IPstage.exe を Windows のスタートアップに登録します。

## 6. サイネージのホルダー

IP\_STUDIO の配信コンテンツ (データ) は下記に入ります。

C:\¥IP\_DATA4\_TERM

このホルダーの中に

IPFILE.INI を入れます。

**C:¥DATA**

このホルダーに計測データが入ります。

振動レベル.dat

騒音レベル.dat

IP\_STAGE のデータホルダーは下記になります。

**C : ¥IP\_STAGE**

Data

Log

IPstage.exe

IPstage.ini

※計測器からの取り込みデータの保存場所は IP\_STAGE のプロパティで指定します。

保存ファイル名 → ¥DATA¥騒音レベル.dat (騒音計)

保存ファイル名 → ¥DATA¥振動レベル.dat (振動計)